

博物館の歴史・活動状況

この博物館は 鉱山エネルギー省鉱産局 (DNPM)に所属し 鉱産局の前身であるブラジル地質調査所(SGMB)が設立された1907年以降の標本を所有しています。現在では 鉱物標本5,000点 岩石標本10,000点が展示されています。その大部分は ブラジル国内で実施されてきた地質調査によって集められ 蓄積されたものです。ブラジルの鉱物資源の探鉱・開発は 鉱産局 鉱物資源探鉱公社(CPRM) および民間鉱山会社によって進められています。鉱産局は 資源政策の策定 鉱業法による認許可を主業務にしており 探鉱公社は地質調査の実行を受持っています。したがって これらの標本は 地質調査所およびその後の鉱産局職員や探鉱公社職員による研究調査活動によって集められ 鉱山会社の地質・探鉱技師 一般地質愛好家からの寄贈 および海外の地質研究機関からの寄贈が加わったものといえます。博物館は 1907年の設立以来 1972年まで一般公開されてきましたが 1972年5月に生じた火災のため 損害を被り その後再整理・補充されて 1981年から2階展

示室が公開され 現在に至っています。この博物館を一般公開する目的は ブラジルの鉱物の産出状態を人々に知ってもらうことにあります。見学した人々が鉱物資源の分野に理解を示し 将来何らかのかたちで援助してくれることを期待しているわけです。入館者数は年間約5,000人。その内わけは 大学・研究所等の専門家が50%以上と最も多く さらに中・高校生が続き そしてその他として 一般(旅行者) 政府事務職員 小学生等となっています。

最後になりましたが 鉱物と岩石博物館では 各国の研究機関と標本の交換を行っています。

問合せ先は以下の通りです。

Director,
Departamento nacional da producao mineral,
Av. Pasteur, 404-2 Andar,
22290 Praia Vermelha,
Rio de Janeiro-RJ,
Brazil.

////////////////////////////////////地学と切手////////////////////////////////////

月の山

ルーウェンゾリの切手

P. Q.

東アフリカに2条のリフトバレーが走っている。それは紅海 アデン湾から南へ6,000kmの大陸の裂け目である。東西2条のリフトバレーのうち東側はケニアでグレゴリーリフトと呼ばれ 多くの火山がその中に認められる。西側のリフトバレーは アルバート湖 タンガニカ湖 ニアサ湖と続く湖底が海面下に達する深い裂線である。

この西部リフトの中に「月の山」ルーウェンゾリがそそり立っている。それはアフリカの非火山性の山の中で最も高い。赤道直下にあつて海拔5,130mの雪をいただいた山であり 周囲の標高より4000m高い。ルーウェンゾリは先カンブリア時代の結晶片岩から出来ている。この結晶片岩の山塊は周囲の落ち込んだ地溝の中にそびえており 沖積層の隆起した段丘の



存在によって 隆起は最近に起ったことが証明されている。その周囲は 西側のコンゴ側は直線状の正断層によって東側のウガンダ側は上への曲隆によって限られている。このような高さの変化は 地殻の均衡あるいはユースタチックな効果を超えたものであり更新世から現世へかけての噴火によって かなりの深さから運び上げられて投げ出されたブロックにたとえられる。

この様な赤道直下にありながら雪線以上の氷河をいただく先カンブリア界のブロックを持ち上げた火成活動は カーボネタイトを初めとして 白榴石 かすみ石 黄長石などを含む火山弾や火山礫を主とするものに帰されているが 必ずしも充分に説明しきれているとは言い難い。

////////////////////////////////////地学と切手////////////////////////////////////